

特集

# 軽労化に貢献する生分解性資材

「キャベツとトウモロコシ栽培には生分解性フィルム(以下、生分解性)を使いますね。マルチフィルムを片付けにかかる手間と経費を考えれば十分にペイします」と語るのは茨城県八千代町でハクサイなどを中心に野菜生産に従事する猪瀬伸さんだ。野菜栽培においては保温などに効果があるマルチフィルムが欠かせない。だがいつまでも分解をしないので、回収し適切に処分しなければならぬ。これが生産者にとって大きな負担となっている。このため規模が大きくなればなるほど、既存のフィルムから生分解性に移行する動きが広がっている。生分解性によってフィルム回収といったきつい作業から脱却して軽労化を実現することが可能となる。

## 「規模拡大に欠かせない」

### キャベツ栽培に導入(八千代町) 猪瀬さん

茨城県西部の八千代町 春キャベツ2町歩ほど。は平坦で肥沃な大地と首 これにメロンが加わる。都圏に位置する条件を生 ハウスから露地へ移行し かしハクサイ生産では国 ながら、タカミメロン、 内トップ。農業生産に力 クインシーメロン、キン が入る。猪瀬さんの農業 シュウメロンを栽培して 経営の概要は、秋冬ハク いる。このため年間を通 サイ13町歩、キャベツ4 じて目の回るような忙し 町歩、春ハクサイ5町歩。 だ。「5月の露地メロ

ンにトーンつけをしてい る。ここに登場したの れが終わった頃が一息つ が、微生物などの作用に ける時ですね。それから よって早く分解されれば ずっと忙しくなります」 から回収の必要がなくな り、そのままほ場にすき 草を抑えるための地温を 性フィルムだ。 それだけの利点がある のならば、すぐに普及す こととなる。 「畝の長さは50以上 になるところもありま す。刈払機をかけた後に 手で引っ張って剥がして いてもキャベツの残根が 残っていたりすると引っ かかってしまいます。そう になると生分解性にした方 が楽ですよ。回収した既 存のフィルムは農協に金 を払って処分してもら う。これにかかる経費の ことを思えば生分解性の 方が良いなってきます ね」と猪瀬さんが生分解 性導入の動機を説明して くれた。ハクサイではキ

ャベツのようなきは起 分解性を使う。 年間を通じて多忙だ 高齡化が大きな問題とな っているが、八千代町に と外国人農業研修生が農 作業を行っている。各種 農業機械も必要だ。畑 地を返す、耕うんなど 115馬力と95馬力の トラクタが担当する。こ の他に28馬力のトラクタ もあるが、こちらはハウ ス内で活躍する。肥料散 布、防除用を使う50馬力 のトラクタも2台所有す る。野菜移植機もあるが、 植付けは人海戦術でも行 っている。

全国では農業生産者の 生分解性フィルムでなげ ればならない」と猪瀬さ ん。大規模化してますま す作業時間が限られる野 菜生産者にとって生分解 性は当然の選択だろう。 取材をしたのは、2月 2日に降った雪が畑に残 る頃。雪をかき分けての 収穫作業が行われてい た。猪瀬さんでは農協を 通した契約栽培が大勢を 占めているが、人手不足 の時代を迎えて農産物を 運ぶドライバーの確保が 気になるところだと指摘 した。

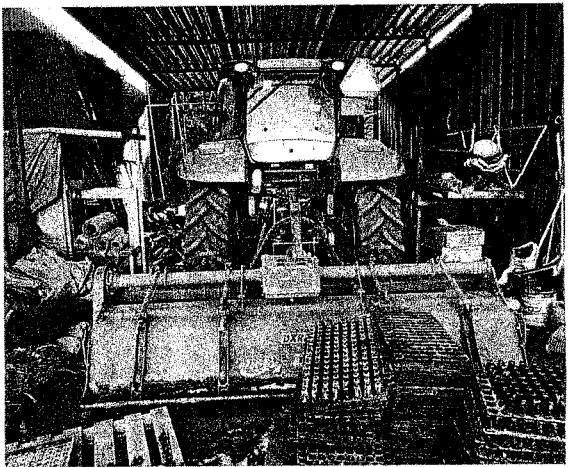


畑に立つ猪瀬伸さん



雪の残る畑と猪瀬さんの4トトラック

猪瀬さんは キャベツで生 分解性を使っ ている。フィ



耕うん、整地に使う115馬力トラクタ

ころないが、トウモロコシでも脇芽が絡むので生

分解性を使う。 年間を通じて多忙だ 高齡化が大きな問題とな っているが、八千代町に と外国人農業研修生が農 作業を行っている。各種 農業機械も必要だ。畑 地を返す、耕うんなど 115馬力と95馬力の トラクタが担当する。こ の他に28馬力のトラクタ もあるが、こちらはハウ ス内で活躍する。肥料散 布、防除用を使う50馬力 のトラクタも2台所有す る。野菜移植機もあるが、 植付けは人海戦術でも行 っている。